

平成元年・12月号

発行 桜木公民館
徳山市城ヶ丘2-4-21
Tel (0834) 28-5973

正月用「注連(し)飾り」

地区老人クラブ同好会が即売



今年も年の暮れの恒例行事として、地区老人クラブの「注連飾り同好会」では、次のように即売会を行います。

主材料の「わら」の良品の入手が年々困難になり、或るいは、かなりの労力手間もかかることから、即売の数も往年の如く多く無いとのことである。

●とき 12月27日(水)午前9時から

●ところ 桜木公民館 1階講堂

※先着順に公民館玄関で整理券を渡します。整理券があっても、売り切れ時点で即売を締切りますのでご承知おき下さい。

※種類は、●玄関飾り●床飾り●荒神飾り●輪飾り等に限定されています。

年未のし挨拶

激動の平成元年も、いよいよ年の瀬が押し迫り、皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。桜木地区コミュニティの今年の諸行事も、皆様の熱意に燃えた積極的なご協力を得まして、諸事順調に推移し、地区のふれあいの輪が益々大きくなったことはご同慶にたえません。衷心より厚く御礼を申し上げます。有難う御座いました。明年は、本年度の大きな課題である「ふるさと創生事業」が新年早々に本格的に始動致しますがこの事業に對しまして、さらにこの上とも格別のご協力を賜りますようお願い申し上げます。第で御座います。新しい年が、地区の皆様方に限りないご多幸をもたらしますことを祈念し、簡単粗辞であります年未のご挨拶と致します。

●桜木地区コミュニティ推進協議会
●桜木公民館

新春行事案内

◎ 新年ふれあい互礼会

— 1月14日(日)

◎ 建国記念の日奉祝式典

— 2月11日(日祝日)

※実施要領の詳細は12月13日開催のコミ理事会で決定し、関係者に別途通知致します。

スポ少からのお知らせ(予告)

例年の如く、来年度の新入団員を募集しますが、各クラブごとの詳細な募集要項は、新春1月の公民館だよりでお知らせ致します。



★佛語の「一〇八煩惱」
一説に、眼・耳・鼻・舌・身・意の六根が、色・声・香・味・触法の六塵と関係する時に、それぞれ苦楽・不苦・不楽の三種があつて、一八の煩惱となる。これを染淨の二つに分け、この三六をさらに過去・現在・未来の三つに分けて、一〇八となると計算したものとある。
★ちなみに、①「一〇八煩惱」になぞらえて、一〇八の珠をつなぐところから、数珠(じゆず)をいう②或るいは、一年の十二ヶ月・二十四気・七十二候を合わせた数のこと等々色々ある。

地区体育振興会 ニュース

【女子(フェザー級)綱引き・準優勝】

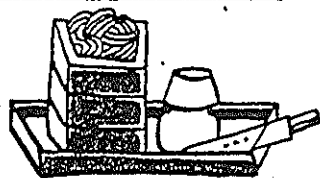
11月26日、鹿野町体育館竣工記念で開催された第4回周南地区スポーツ大会(親睦綱引き大会)で、フェザー級では我が桜木地区体振から女子チームが徳山市代表で出場し健闘の結果準優勝の栄冠を得ました。

(尚、桜木女子チームは、10月の徳山市民体育大会では優勝の実績を誇っています。)

【平成元年・体振の活動の記録写真展】

今年1年間の体育振興会の色々なスポーツ活動を数多くの写真で記録していますが、これをまとめて桜木公民館に展示していますので、御覧になって下さい。 ※自分に関係する写真を希望の方は、展示場所に掲げている要領で申込をして下さい。

※申込は、概ね新年の1月中と致します。

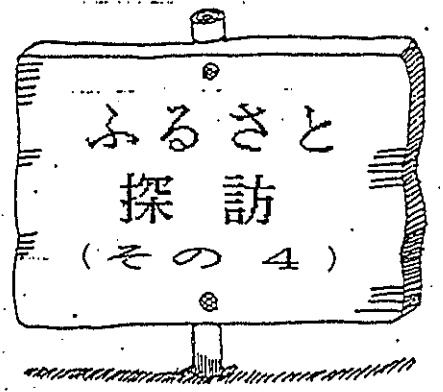


知っていますか?
年の暮れ
Q & A

一、百八つの「除夜の鐘」

★古来、寺院で朝夕、一〇八回鐘を叩いていたが、特に後世になって寺院で大晦日の夜一〇八回鐘を叩くようになった。

★(註)一〇八の数については、古来から色々各方面で数合わせの言い伝えがあるが、「百八つの除夜の鐘」と言えば、今日では佛語に言う「人間の持つ一〇八種の煩惱(ぼんのう)を払い除く」という意味をこめたものとなっている。



◆ふるさと探訪は、黒坂政雄氏(城5)のご寄稿を頂き、7月号から9月号までの「平原の神社物語の山のこと」を連載してまいりました。◆10.11月は休載でしたが、その間、黒坂先生は熱心に探訪を続けられたので再度連載をいただきます。

馬屋集落の歴史

◆馬屋集落の起りは明確でない。寛延三年(一七五〇)の徳山村の地下上申に、「昔この山(註、とおの山のこと)に「かき上之小城」(註、昔のこと)があった。居城の人が、ここに馬屋をおいたので、この地を馬屋といった。」と記されている。

◆この記載の「昔の「かき上之小城」のあった頃とは、六百年前の南北朝時代の頃である。この頃は、山口市付近を根拠地として勢力を奮っていた「大内氏」と、下松市付近に根拠地を持っていた「隆徳氏」との勢力対立の最前線がこの付近であった。この付近は、地勢的にみて戦略上の要地は「とおの山」が最高であり、それ故に昔もこの山に構えられ、とおの山の西南山麓に馬屋が置かれた。

山口の大内弘世は、この地を重要視して、家臣の陶弘政を富田に移封した。そして弘政は徳山の野上氏を「とおの山」の砦の防守に当らせたのである。

◆昔から、「とおの山・山麓の平原・上馬屋には、数多くの古い「五輪塔」が祀られていたが、これは昔からの度々の戦いで戦死した兵士たちの供養に建てられたものである。

◆しかし、上馬屋集落は、昔の馬屋がここに置かれた南北朝時代に発生したのではなく、その以前から少数ではあっても集落を形成して、人々が生活をしてきたのではないかと

思われるが、それはいつごろかは分からない。そして、それから後、時の流れに従って集落人口の増加や経済生活の拡大・利便さの追求等々で、生活圏が逐次南

え細長く広がり、いつの間にか下馬屋の集落が大きく形成されたと思うのである。

◆太平洋戦争後、徳山市は商工業を中心に、周南地区の中核都市として目覚ましく発展した。

◆それに伴う人口増加の解決策として、この地区(周南団地)を市街地のベッドタウンとする団地造成が二十数年前に始まり、下馬屋も造成計画に組み入れられ、大規模な工事が行われ、現在は孝田町・城ヶ丘・桜木等の新地名で呼ばれる極めて整備された居住地として生まれ変わったのである。

一、上馬屋の河内社

◆上馬屋には、今は社趾だけになっているが「河内社」という小社があった。祭神は、平原の河内社と同じ水の神の「御水分神」(みまくりのかみ)であった。

◆河内社の建立は明らかでない。昭和四十六年(一九七一年)に、上馬屋出身の山本武夫氏が「山口県地方史研究」の中で「城ヶ岡」という研究論文を発表されている。その中に次のようなことが記述されている。

「馬屋の山本氏の家に残っている河内社の棟札には、
「河内五社大明神社宇再建立武運長久国家安全」
享保式丁酉九月十有一日」

と記されているというのである。

◆享保二年(一七一七年)は今(一九八九)から二七二年前である。次の二枚目の棟札は、文政五年(一八二二年)のものである。これは享保の再建から約百年後である。このことから、算術的単純推計は科学的ではないが、再建に百年位かかったとすると、河内社の創建は享保の再建から百年位前の一六〇〇年代、それも前半まで遡ると考えることは出来ないだろうか。

◆河内社は、創建以来、農業中心で生きる農民の信仰の対象であった。

◆神前で五穀豊穡の神事を行い、境内は地区集落民ふれあいの重要な場となって、長い間の歴史を伝えてきたのである。然し、明治四十年の廃社整理の県令が施行された頃、と思うが、河内社も廃社となり遠石八幡宮に合祀されることになった。

◆現在、河内社の跡地には、石の祠と、石の手洗鉢、御田頭幸(ごでんどう)の3※1参照の時に神輿を置いた大きな台石、が残っている。

また、河内社の解体の時に、社殿は馬屋の人が譲り受けて物置として利用したという話も残っている。古者は、

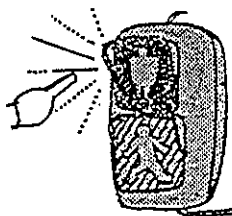
「わしらが子供の頃は、社殿も立派なもので、この境内ではよく遊んだものよ。うー。うー。」
と感慨深げに話していた。(つづく)

※次号は、「下馬屋の権現様」の探訪。

安全な暮らしが豊かな暮らし ◆平安な年末年始を

防長路 無事故でつなごう ゆく年くる年

- ◆県下各地で、交通死亡事故が多発しています。〔正しい交通ルールとマナーの実践〕が極めて悪いと言わざるを得ません。
- ◆年末のあわただしさ、正月の解放感などから、更に事故多発が憂慮されます。人も車もルールを守り安全を徹底し、事故を起こさず、事故に遭わないようにしましょう



火の用心!

- ◆火災も、年末になると多発する。今年も(天ぷら火災)が火災原因の1位(釜山消防管内)だそう。2位はタバコ。
- ◆交通事故と同じく、慣れと油断から安易に火を扱い、大切な財産を一瞬に灰にしている。

▼【火の始末は慎重に】